

令和2年12月24日

## 二学期終業式にあたって

学校長 松浦りつ子

二学期が今日で終了します。一学期に学校が再開されてから、徐々に授業のリズムも整い、今学期はいくつかの学校行事も実施することができました。でも、コロナの感染拡大防止の予防対策は、これからも欠かせません。以前の学校生活が完全に復活するには、まだまだ時間がかかりそうです。こうした中でも、皆さんが元気に学校生活を送ってくれているのは、なによりも有り難いことだと感じています。

「マスクを外す昼食時間には、話をせずに食べましょう」とか「手指の消毒を確実にしましょう」とか「寒いけれど換気をしっかりと行いましょう」など、日常生活が不自由になる中での予防対策に応えてくれている皆さんの姿。コロナに感染するのではないかというストレスを抱えながらも、公共交通機関で毎日通学してくれる皆さんの気持ち。学校行事などの変更を受け入れてくれる皆さんの理解。昨日は、2年次の修学旅行を中止とし日帰り学年旅行に切り替えることを、年次集会で話しました。全員がしっかりと前を向いて私の話を聞いて理解しようとしてくれている姿に、感謝の気持ちで一杯になりました。ほんとうにありがとうございました。また、感染症予防対策に率先して当たってくださっている先生方の配慮。さらには、そうした学校の取組や皆さんの学習環境に理解を示してくださる、保護者や地域の方々。今学期は、様々な立場の方々の理解と思いやりに満ちた学校生活となりました。

さて、今年度は皆さんに「目標をもちましょう」ということをお話ししています。二学期には、どんな目標を立てて取り組んだでしょうか。ここで、先日の「夢をかなえるゾウ」の劇

を思い出してください。目標を持つことは簡単だけれど難しい、難しいけれど簡単。そういうメッセージもありましたね。「自分は運が良い！」と声に出して言うことは、簡単なようでその実とても難しいことです。なぜなら、涙も出ないくらい苦しいときに、笑顔を作ったり運が良いと思ったりするには、大変なエネルギーが必要だからです。そのエネルギーの元になるものは何だと思いますか。劇の中では、何だったでしょうか。そうです。「人の支え」でした。皆さんの周りにも、自分を支えてくれている人の存在があります。

学校とは、学問を学ぶ以上に、そうした人とのつながりをたくさん作るための場です。人とのつながり方を学ぶ場と言い換えることもできます。春の緊急事態宣言が出され学校も臨時休業になったとき、「学校に行きたい」「友達と会いたい」と思ったことを思い出してください。それこそが、皆さんが太子高校で学ぶ大きな意義の一つです。時には感情がすれ違ったり、意見がぶつかったりして辛いこともあるでしょうが、それは恥ずかしいことでも失敗したことでもありません。人とのつながりは、そうした辛さを乗り越える度に強く確実なものになっていくものだからです。学校生活の中で、乗り越え方を学んでください。ガネーシヤも言っていました。「失敗なんてあらへんのや！」と。冬休みの間に、このことについて静かに考えてみるのもいいかもしれません。

コロナの感染状況が日を追うごとに深刻さを増しています。クリスマスや年末年始の楽しみを我慢することも、多くなっていると思います。でも、我慢させられていると捉えるのではなく、静かな生活の中で何が得られるのか考える機会にしてください。感染予防に努め、三学期に、また皆さんの元気な姿に会えることを楽しみにしています。